

## ひげば生やすぞ!

1976年、熊本は離れて歌い始めて20年たい。それで、熊本でリサイタルば開くことにしたったたい。アメリカの兵士たちの前でカントリーミュージックば演奏して、喜んでもらうことは楽しかったたい、ばってんね、やっぱり日本人たちにもカントリーの良さとか、カントリーに流れるアメリカ人の温かい心というもんば、もっともっと知って欲しかったとたい。

「なーん、日本人のくせにアメリカかぶれで、横文字の歌ば歌とうて……」

て言う人もおらすもん、ばってんね、カントリーはアメリカの人たちにとって生活そのものだし、恋の歌だし、ふるさとへの郷愁だもんね。日本で言うなら浪花節とか演歌のようなものたい。だけんね、英語で歌わにゃんとたい。日本の演歌ば英語で歌ったらもう演歌じゃなかでしよが。

今もそうばってん、当時はロックやフォークなんかが流行つとつて、カントリーはマイナーだもんね。レコードも店では売つとらんし、たまーに大学生のブルースバンドが演るぐらいたたい。

リサイタルは5月11日、熊本市民会館だったね。チケットが売れるかどうか心配だったばっ

てん、長年の友だちとかフアンの人たちが頑張ってくれたおかげで、なんとかあったたい。もともとお金はなかけんね、チケットが売れんことにはどうしようもなかとたい。それにちょっと前まで沖縄で仕事ばしよったけんね。

リサイタルが終わったあと6月になって、バンドのみんなと一緒にアメリカに行くことになったたい。そのときたい、いやその前か、沖縄にいらるときにね、

「6月にアメリカに行くなら、今からひげば生やすんといかんばい」  
て誰だったかねえ、そぎゃんこつば言い出したもん。

「日本人は若く見られるけんね、つるんとした顔しとつたらなめらるつたい」



1976年。歌い始めて20周年のリサイタルで。